



ムトスぷらざ

小中一貫教育に適した学校施設のあり方

－ 望ましい施設形態について －

山浦 貞一

yamaura_sadakazu@shinshu-u.ac.jp

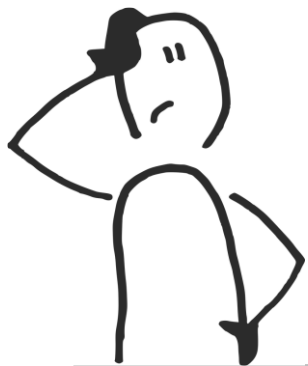
「これまでの経過」に見る これからの学校づくりのスタンス

[情報共有]

- ・ 飯田市教育委員会事務局の綿密な審議会推進と
丁寧な資料づくり

[ボトムアップ方式]

- ・ 教育委員会と首長部局をはじめとする関係部局
の連携・理念の共有、地域住民との対話・理解
・ 共創のプロセス
- ・ 地域の状況や課題に即して丁寧に検討を重ね、
関係者との対話と合意形成



小中一貫教育に適した 望ましい学校施設のあり方

- 地域住民の「思い」を引き継ぐとは
- これからの時代の「学び」と、
学校に求められるものとは
 - ・ 変化し続ける時代のなかで、
「どこに」向かい「何を」求めていくか
- 学校施設の「一体型・隣接型・分離型」とは



歴史が示す学び…150年を過ぎた小学校

「歴史」は過去の研究ではない。変化の研究だ。歴史は、何が変わらず、何が変化し、物事がどのように変化するかを教えてくれる。未来は今後の年月に私たちが全員で行なう選択によって決まる。（ハリリ著「NEXUS」より）

令和・平成期		昭和中期・後期		学制改革期		昭和初期・戦時期		大正期		明治期		期				
R8	H1	S63	S29	S28	S21	S16	S1	T14	T1	M44	M1	年号				
80年						78年										
・ GIGAスクール構想 2		・ 詰め込み、受験重視教育からゆとり教育へ ・ 学校週5日制、学校評価、学校選択制 ・ 全国学力・学習状況調査（悉皆） □公益社団法人下伊那教育会の発足 道徳の教科化、外国語教育教科化 2519		・ 人間性尊重の教育へ：高校進学率90%強 ●神波利夫先生：重層的学力、全体講師22年 ・ 学力論争が起こり信州教育に課題提起 41403830		●松島八郎先生：下伊那教育会の組織化 伊賀良小学校：職員研修と先見的な経営 飯田東中学校：新制中学校、りんご並木 2222		・ 教育基本法、学校教育法発布 飯田市大火 2222		●市村咸人先生：郷土調査の進展 ■追手町小学校建設 ・ 教育は自由から統制へ、 個人主義から全体主義へと進む ・ 国民学校の発足 164		・ 大正デモクラシーの高まり ●木下紫水先生：竜丘小学校自由画教育 第2回全国自由画展覧会 ・ 自由教育の受難、気分教育と揶揄 川井訓導修身事件 138		・ 欧米へ教員養成制度調査に留学生派遣 ：6人の留学生のうち3人が信州人 ◇小学校設立数85校（飯田市37校） □下伊那教育会の誕生 ・ 全県的研究会の開催（連合教科研究会他） 1285		下伊那教育会の動き

■：現在建築後60年を超える学校施設（市教委資料「論点2」）を加筆

下伊那教育(明治期)

- ☑伊那谷は、江戸期から明治初年にかけて寺子屋が普及し、国学も極めて盛んになった。**筑摩県初代長官永山盛輝**（鹿児島）が郷学校の設立を勧め、これを小学校へ連続させた。**下伊那の小学校設立は全国に先がけてすすみ、明治8年の小学校設立は85校**であった。（下伊那教育会史百周年記念誌より）

[郷学校：各地域の住民や有志が設立した公立的性格をもつ庶民向けの学問所]

【高い就学率】

- ☑明治9年(1876)の小学校の全国就学率は38%であったが、**長野県の就学率は63%で全国一位**。明治34年には90%を超える。

【近代教育を志向する明治政府】

- ☑明治8年明治政府は教員養成制度をつくるために留学生6人を欧米に派遣。そのうち**3人が信州人**。高遠出身の伊沢修二、小諸出身の神津専三郎、**飯田出身の中川元**だった。

（県立歴史館総合情報課資料より）

明治8年小学校名と所在地

表1 明治8年度小学校名と所在地

注) 赤色網掛け：飯田市内 ●：現在築50年以上の小学校所在地

学校名	所在地	現所在地	学校名	所在地	現所在地	学校名	所在地	現所在地
飯田	飯田町	飯田市●	毛賀	松尾村	飯田市●	清内路	米川村	阿智村
上飯田	上飯田町	同●	松尾	同	同●	小野川	阿知村	同
大平	同	同	島田	同	同	駒場	同	同
黒田	上郷村	同●	中山	生田村	松川町	中関	同	同
別府	同	同	部奈	同	同	伍和	伍和村	同
飯沼	同	同	河北	同	同	親田	睦沢村	下條村
麻績	同	同	河南	同	同	浪合	平浪村	阿智村
下市田	市田村	高森町	田村	神稲村	豊丘村	平谷	同	平谷村
牛牧	同	同	林	同	同	根羽	根羽村	根羽村
大島山	同	同	伴野	同	同	鹿塩	大塩村	大鹿村
吉田	同	同	福島	同	同	大河原	同	同
山吹	里見村	同	阿島	喬木村	喬木村	南原	久堅村	飯田市●
新田	同	松川町	小川	同	同	竜江	竜江村	同
桑園	同	同	氏乗	同	同	今田	同	同
新井	同	同	富田	同	同	千栄	千栄村	同
福島	神原村	天龍村	伊久間	同	同	万場	泰阜村	泰阜村
向方	同	同	虎岩	久堅村	飯田市●	南山	同	同
旦開	旦開村	阿南町	知久平	同	同	千代	千代村	飯田市●
売木	同	売木村	柏原	同	同	上村	遠山村	同
和合	同	阿南町	柏原山分	同	同	木沢	同	同
下条	大下条村	同	長峰樹山	生田村	松川町	和田	同	同●
富草	富草村	同	鼎	鼎村	飯田市●	八重河内	同	同
陽阜	陽阜村	下條村	名古熊	同	同	満島	平岡村	天龍村
睦沢	睦沢村	同	殿岡	伊賀良村	同	鶯巣	同	同
伊豆木	三綱村	飯田市●	北方	同	同	名古山	遠山村	飯田市●
川路	信夫村	同	大瀬木	同	同	上片桐	片桐村	松川町
桐林	同	同●	中村	同	同	注： 『下伊那教育会史 百周年記念』 第4表より作成		
時亦(又)	同	同	竹佐	米川村	同			
駄科	同	同	山本	同	同			

下伊那地方の小学校の設立は85校に及んだ。(飯田市38校／85校)

しかし、形の上では小学校が開設されても、経済的に余裕のない村々では、新しく校舎を建て、施設設備を整えるということは容易でなかった。**ほとんど寺院や民家などを借用しての出発**であり、新築したのは24校であった。新築と言っても旧民家を改造した程度の建物であった。

教員は、1校1人の学校が80%
[M8]で、教員数が不足していた。

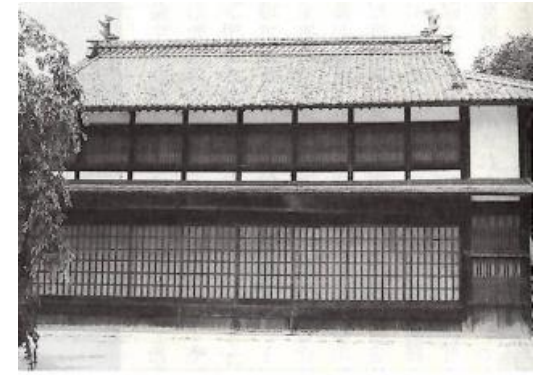


写真1 麻績学校の舞台校舎(明治7年落成 旧座光寺小学校)

先人(住民)たちの熱い「思い」

教育施設の整備や条件整備に尽力した住民の熱意（一例）

■旧座光寺麻績学校校舎は、歌舞伎舞台と学校とを兼用するように明治6年に建てられもので、学校建物としては県下で最も古い。👉舞台校舎

■大屋根の棟には建設当時の校名「麻績小校」が記されていて、昭和59年までの111年間、学校として活用されていた貴重な建物。

[木造2階建、一部3階建、桟瓦葺入母屋造]

■農村の歌舞伎舞台としては県下最大級で全国的にも珍しい。

明治5年の「学制」を受け、財政上、舞台と学校の両方建てることができず、兼用できる舞台校舎を建築



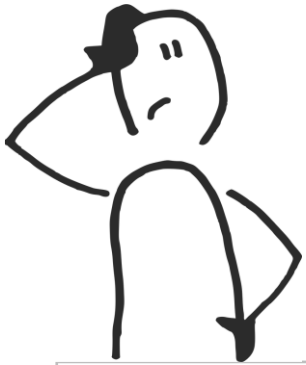
●麻績学校／初代筑摩県権令永山盛輝揮毫(明治8年)



2022.9.25 撮影

歴史は「変化」である。地域の「思い」を引き継ぎながら、教育環境を整えるのは、現在（いま）の人たちの「選択」である。

- ・ 地域の「思い」を引き継ぐとは、少子化や老朽化が進む現状を受け止め、地域ぐるみで安全・安心で質の高い学習環境を整え、子どもたちの9年間の学びを支えていくこと
- ・ 地域の「思い」を地域の「力」にどう転換すればよいか。学校施設が「地域の未来を育む拠点」として再生・機能強化していくために、地域のあり方など様々な課題に主体的に取り組むこと



小中一貫教育に適した 望ましい学校施設のあり方

- 地域住民の「想い」を引き継ぐとは
- これからの時代の「学び」と、
学校に求められるものとは
 - ・ 変化し続ける時代のなかで、
「どこに」向かい「何を」求めていくか
- 学校施設の「一体型・隣接型・分離型」とは



情報技術の普及と AI 時代の学びとは？

未来学者：カーツワイル氏 さまざまな技術の発明の年から普及するまでの年数を記載
 ◆「普及」の定義：ある技術を米国人の25%以上が使うようになった時（カーツワイル氏）

西 暦	明 治	大 正	昭 和	平 成	令 和
		1912	1926	1989	2019
 電話	● → <u>35年</u> 1880		 [1936 映画「モダン・タイムス」：チャップリンの警鐘]	<産業革命> ・大量生産 ・大量消費 ・ベルトコンベア	
 ラジオ	● → <u>20年</u> 1900				
 テレビ					
 PC・携帯					
 WWW					
			● → <u>16年</u> 1930		
			● → <u>10年</u> 1980		
			● → <u>6年</u> 1990		

1. 社会構造と子供たちを取り巻く環境の変化

日常的に情報に囲まれていることに気づかない状況や、大人が想像する以上に子供にかかる「同調圧力」の影響は非常に大きい。このようななか、子供たちの「デジタル・シティズンシップ」の育成は喫緊の課題となっている。

学校外での平日にデジタル機器の利用状況(高校1年生) 2018年
(毎日1日あたり)

● コンピューターで遊べるをする	● ネット上でチャットする
日本 3.0% 22.2%	日本 87.4% 67.3%
● 1人用ゲームで遊ぶ	● インターネットでニュースを読む
日本 47.7% 26.7%	日本 43.4% 38.8%

2020年度 小学生 41.0% (10.0%)
中学生 84.3% (1.5%)
高校生 99.1% (3.8%)

子供専用のスマホ保有率

フィルタリング現象
アルゴリズムにより、自分の考えや嗜好に合う情報でフィルターを通過して表示されるようになり、多様性を失った自分の狭い情報「バブル」に囲まれ、その他の情報から隔離されやすくなる状況。

学校外でも同調圧力
日本の子供のチャット利用は非常に早く、昼休みや放課後、グループでのやり取りやメッセージの閲覧頻度ができる環境は、学校外においても、同調圧力が生じやすい状況。

2022年11月に公開された「話しかけるように質問を入力すると文章で答える対話型のチャットGPT」など、生成AI（人工知能）がすごい勢いで広まりつつある。

Society5.0 / デジタル社会 / ロボット / ドローン / AIミユトス ...

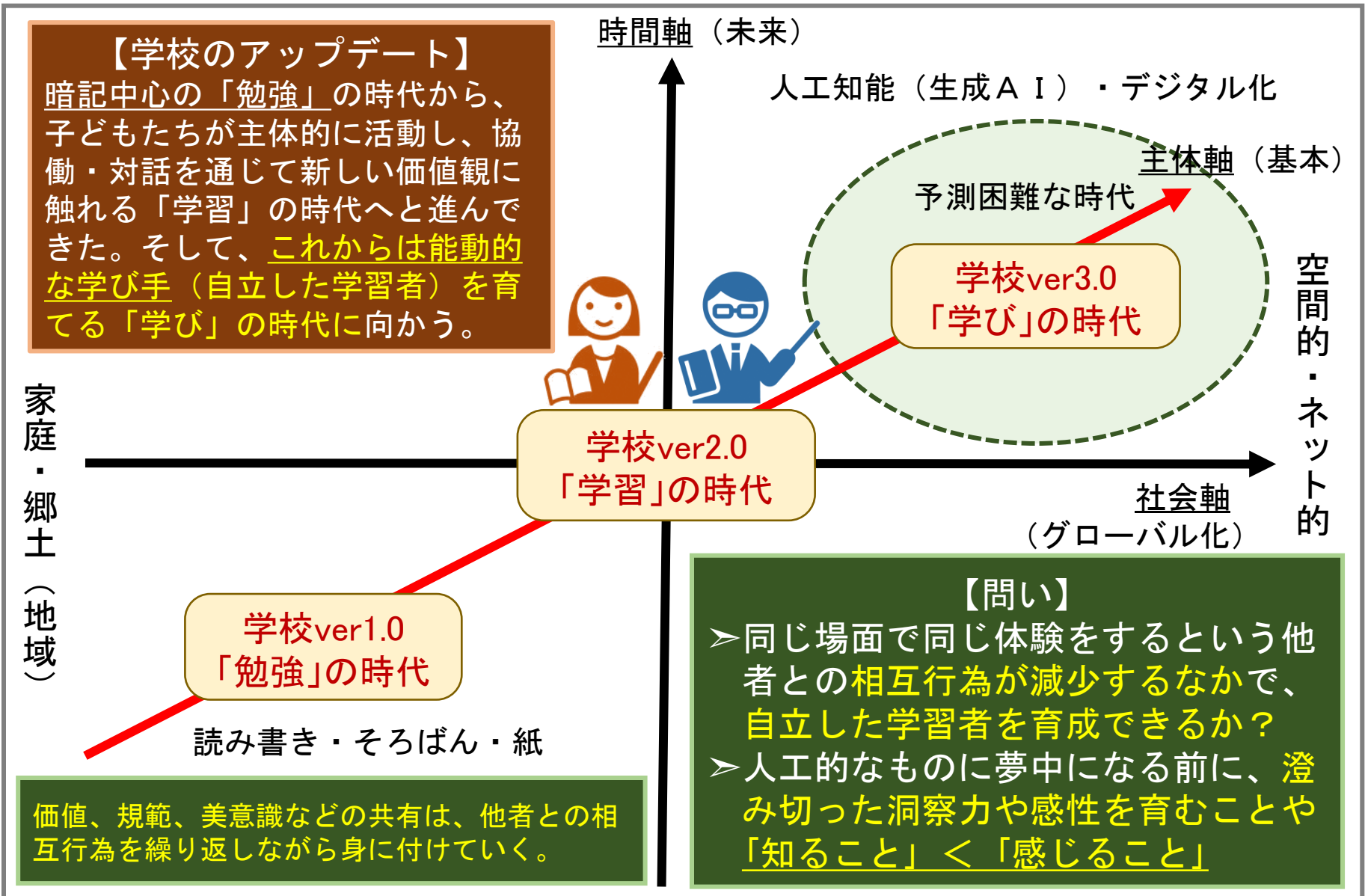
OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2018によると、**日本の子供のICT活用状況**は、OECD加盟国間の比較において、学校の授業での利用時間が短く、学校外では多様な用途で利用しているものの、チャットやゲームの利用に偏る傾向がある。

また、スマートフォンは、10年前にはほとんど子供たちは持っていなかったが、**現在のスマホ保有率は、高校生は99.1%、中学生が84.3%と非常に高く**、「フィルターバブル現象」の中で日常的に情報に触れていることに気づかない状況や、大人が想像する以上に子供にかかる「同調圧力」の影響は非常に大きい。

出所：2022. 1. 24「第127回文部科学省教育課程部会資料」

■ A I 時代における「人」の価値や本質は 何だろう？
— 「人の役に立ちたい！ 人に必要とされたい！…」 —

学校のアップデート「学び」の時代へ



「竜東学園」のさまざまな実体験



「遊び」は生活と深く結びついている。遊びの中でことばを使う。記号も使う。しばしば数や量を比べ、競う。つまり、遊びの中にはことばや数・量について記号接地し、探究してくための種がいくらかでもある。

⇒プレイフル・ラーニング

出所：今井むつみ著「学力喪失」

同じ空気を、同じ感覚を共に分かち合いながら、そこで一つのものを作り上げる、一つのことをやり遂げる。これに勝る教育はない。 「姜尚中氏の講演」より¹³

変化の激しい時代だからこそ、 譲れない**価値**や**本質**を考えたい

「いま」（子ども時代）の喜びを体感する尊さ

教育の本質は、効率主義や成果主義の先にはない
はずです。…むしろ、**無駄なことや遠回りした先に
待っている。**

だから、よそ見をしたり、道草を食ったりしながら、
カーナビには絶対に出てこないルートを進むな
かで、**さまざまな実体験を積み重ねていくのが人生
だ**と思う。

出所：養老孟司著「子どもが心配」

■学校は「**学習の場**」である、と同時に「**生活の場**」でもある

👉学校という場所は…学力だけでなく人間性・社会性も育む

「人間力」・「社会力」の衰退

— 外の自然を壊してきた技術が、人間の内面を劣化させていく社会？ —

家庭

外

地域

◆小さくなった家族のサイズ

- 家族内での相互行為の減少
- 社会力を形成する家庭の土壌の衰弱

◆家庭のホテル化と家族の分断

- 家族が共に汗を流す共同作業の減少

■急速な都市化と過疎化

- 失われていく地域のコミュニティ機能
- 大人と子供が相互行為する場・時の喪失

■無人化が進む生活空間

- 自動販売機に代表される生活の効率化

内

●全国大学生協連調査2025

➢生成AIの利用状況

2025:92.2% 2024:68.2% 2023:46.7%

➢エッセイを書いた後思い出せない割合

ChatGPT:83.3% 自力:11.1%

●川嶋周一教授(明治大学)コメント

- ・生成AIは極めて強力な魔法のようなツールであるが、魔法そのものではない
- AIは人間のある部分的な能力を部分的に拡張する。拡張した自らの部分に自分自身が飲み込まれてはいけない。

SNS, AI
の技術

●直近の信毎 A I 記事の見出し

- 3. 29 授業で25%が生成AI使用
- 3. 30 子どもスマホ時間短い県内
- 4. 18 県教委 学校でAI活用へ
- 4. 23 SNS依存 子を守るには
海外では法規制の動きも
- 4. 24 10代の7%「SNS病的使用」
- 4. 29 AIには書けない文章
- 5. 8 生成AI 児童生徒の利用状況は
- 5. 14 伊那市教委生成AIガイドライン
- 5. 18 学びに生成AI 探りながら

飯田東中学校の「モデル清掃」の効用

1年生指導、縦割り班、「型」、見る



ピンクビブスは3年生

＜社会的相互行為の特徴＞

- ・互いに相手を意識し、相手に対し“選択的に”行為すること
- ・単なる行動のやり取りではなく、状況に意味を持たせ、他者の意図や意味を解釈し、それに応じて反応すること

価値、規範、美意識等の共有へ



「モデル清掃」には、相手の立場に立って、その気持ちや考えを理解しようとする心の働きが生まれる（共感する力）。学校教育には、このような共感する場と時が必須であると考える。

はじめました！ 飯田市の小中一貫教育

9年間の系統性・連続性のある教育活動

『飯田学園構想』における特色ある教育

小中一貫教育の推進

小中学校の先生が1つのチームとなり、9年間を通じて教育活動に取り組むことで学びのつながりができ、こどもが発達段階に応じた力を着実に身に付けていきます。



異年齢の学び合いの実施

異なる学年のこども同士の学び合いが増え、こどもたちがお互いの違いを認め合い、他者と協働して生きていくことの大切さを学びます。



みらい創造科の創設

地域の方と関わる体験などを通して、自分とふるさとの良さや可能性に気づき、自分の生き方を考えていく探究学習を積み重ねることで、こどもが自分自身の力で豊かな人生を切り開いていく力を身に付けていきます。



ムトスの学びの実践

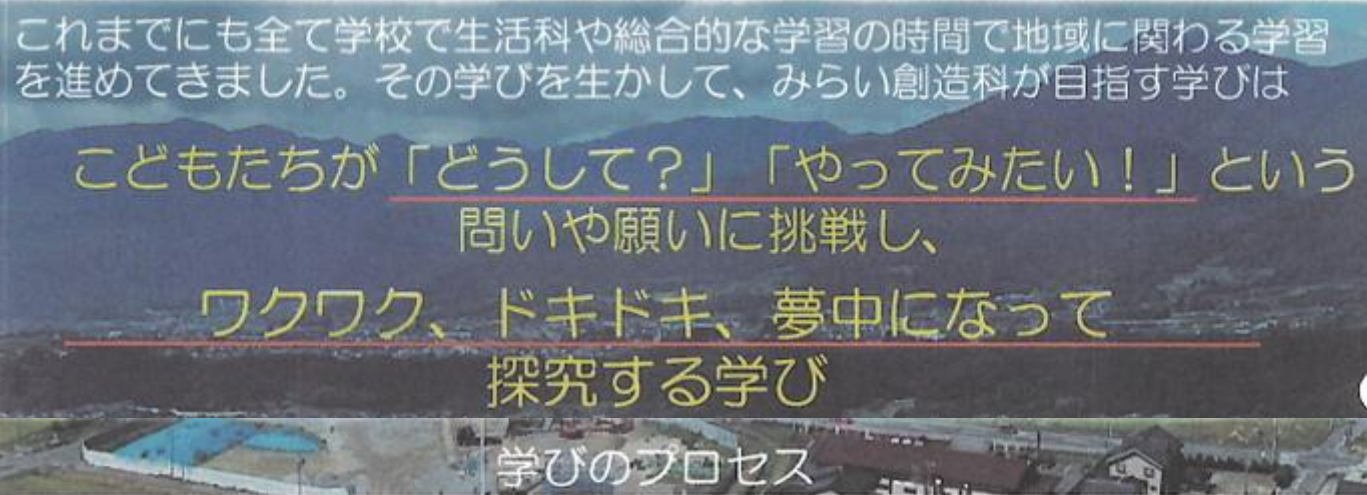
こどもの「なぜ？」や「～したい」を出発点にして、自分から進んで学びに向かい、よりよい考え方や行動を生み出し、さらに学ぼうとする意欲を育んでいきます。



特設教科「みらい創造科」が目指す「探究する学び」とは

出所…飯田市教育委員会リーフレット抜粋

(2026)



探究する学びの進み方は自転車の練習と似ています。
大人が伴走しながら、こどもは試行錯誤を重ねて自走する力をつけていきます。



- ・子どもを上から引っ張り上げるのではなく、自分でよじ上っていけるように環境をつくり、下から少しだけ支える。…現状での子どもの知識を見極め、自分で上がっていけるちょうどよいレベル設定をする。

「探究」と「探究的な学び」の違いは？

注：○は問い／手続／成果の設定において教師が主導権をもつことを意味する

「探究」のレベル		問い	手続	成果
1	確認のための探究 (confirmation inquiry) 前もって結果が分かっている場合に、活動を通じて原理を確認する	○	○	○
2	構造化された探究 (structured inquiry) 与えられた手続きにしたがって、教師が示した問いについて実験する	○	○	
3	指導（ガイド）された探究 (guided inquiry) 生徒が自分でデザインまたは選択した手続きを用いて、教師が示した問いについて実験する	○		
4	オープンな探究 (open inquiry) 生徒が自分でデザインまたは選択した手続きを用いて、生徒自らが立てた問いについて調査する			

「探究的な学び」としてはどうか？

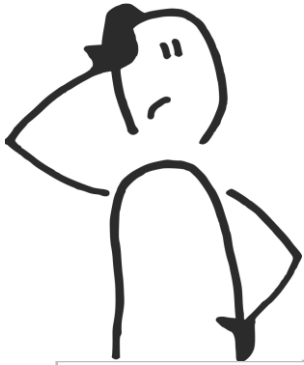
「探究（する学び）」としてはどうか？

出典：Banchi & Bell (2008)

これまでの教育では、人間の頭脳を「**倉庫**」のようなものだと見てきた。コンピューターの出現、普及にともなって、**創造的人間**ということが問題になってきた。人間の頭はこれからも、一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならないだろうが、それだけではいけない。新しいことを考え出す「**工場**」でなくてはならない。

出所：外山滋比古著「思考の整理学」1986

- ・ 学校は**探究する楽しさ、ワクワク感が実感**できる場所である
 - ー 子どもの一番近くにいる大人が、
興味を持たせる環境を醸成すること ー
- ・ 学校は「知識を覚える場」だけではなく、知識を使う練習をし、身体で覚え、「**探究をする場**」となるようにする
 - ー 様々な現象に対して「なぜ？」を持ち、
自分から答えを求めていく姿勢を育てる ー



小中一貫教育に適した 望ましい学校施設のあり方

- 地域住民の「想い」を引き継ぐとは
- これからの時代の「学び」と、
学校に求められるものとは
 - ・ 変化し続ける時代のなかで、
「どこに」向かい「何を」求めていくか
- 学校施設の「一体型・隣接型・分離型」とは
 - ・ 事例の紹介①～⑤



事例①：天龍村立天龍小学校・天龍中学校

[小中併設型小学校・中学校 ／ 施設一体型（R6年度～）]

■ 学校施設環境

- ・ **学年段階の区切りに対応**した空間構成や施設機能

1F:職員室、理科室等専科教室

2F:小学校1年生～6年生（6学級）

3F:中学校1年生～3年生（3学級）

- ・ **体育館（天龍村総合体育施設）**

学校教育施設、社会体育施設、災害避難施設の機能を備えた**複合型施設**



出所：天龍村役場公式サイト

□ 教育活動・学校運営の視点

- ・ **校種によさを効果的に**（小学校卒業の達成感、中学校入学の新鮮さ等）生かすため併設型を選択
- ・ 入学式は合同、卒業式は個別
（保護者アンケートによる合意形成）
- ・ 小学校段階からの**教科担任制導入**
 - ①中学校教員（併任）の教科指導
（国語、社会、算数、英語、体育、音楽）
 - ②教員加配あり [連学年]
 - ③小中学校全教職員：持ち時間17～21h
- ・ **特色ある教育活動の事例**
 - ①全校道徳（縦割り班小1～中3年生）
 - ②中学生の読み聞かせ、小中で語る会
 - ③合同体育（小5・6年生、中学生）
- ・ **異学年交流**による精神的な発達
- ・ **リーダーシップや自主性を養う機会**の創出（児童会企画、生徒会企画、合同企画）

事例②：根羽村立義務教育学校根羽学園

[義務教育学校 ／ 施設一体型（R2年度～）]

■学校施設環境

- ・ 以前：根羽小と根羽中学校は隣接（給食の関係で連絡通路で接続）
- ・ **施設一体型の義務教育学校へ（R2）**
- ・ 旧小学校棟に全学級（1～9年生）
- ・ **旧中学校棟に教科教室**
（国語科室、社会、数学、英語）
- ・ 職員室は共用（長1、頭1）
- ・ 校長室隣に「**学びの村推進センター**」
（後述）



出所：根羽村役場公式サイト

□教育活動・学校運営の視点

- ・ **学年段階の区切り設定「6－3」**
 - ☛ 前期課程：1年生～6年生
 - ☛ 後期課程：7年生～9年生
- ・ **異年齢交流による社会性の発達**
 - ① 姉妹学級の活動（3つの学年で形成）
 - ② 縦割りの活動（3グループ）
 - ☛ 発達段階の差を解消する工夫
- ・ **柔軟性・連続性を意識した教育課程**
 - ① 6年生～9年生の合同道徳
 - ② 総合学習 9か年のカリキュラム
- ・ 小学校段階からの**教科担任制導入**
 - ① 中学校教員（併任）の教科指導
（国語、社会、算数）
 - ② 教員加配あり
- ・ **自主性を損なう懸念**（教師の支援過多）
- ・ **協力体制の充実**（教師の主体性が不安）

事例③：大町市立八坂小・中学校

[義務教育学校 / 施設分離型 (R5年度～)]

■ 学校施設環境

- ・ 八坂地区立地の小学校と中学校の校舎を活用。一方を**施設一体型で検討したが物理的な施設環境(全学級数、特別教室等)の確保が不可能**
- ・ 前期課程：そよかぜ校舎 (中心部)
後期課程：せせらぎ校舎 (人口比2割)
👉 **山道で約2.7km離れ行き来は大変**

プチ情報①



□ 教育活動・学校運営の視点

- ・ 小中学校段階間の一体感を生み出すため、合同授業や合同行事、合同会議等の計画 (学年段階区切り6-3制)
- ・ 教職員の日常的なコミュニケーション(同僚性)や特色ある教育課程、隠れたカリキュラム(9年生の姿)などが弱み

プチ情報②

-長野県内の義務教育学校(6校)-

- | | |
|-------------------|-----|
| ①信濃小中学校 (上水内郡信濃町) | 一体型 |
| ②美麻小中学校 (大町市) | 一体型 |
| ③根羽学園 (下伊那郡根羽村) | 一体型 |
| ④八坂小中学校 (大町市) | 分離型 |
| ⑤檜川小中学校 (塩尻市) | 一体型 |
| ⑥さかえ小中学校 (下水内郡栄村) | 一体型 |

☑ 兼務校長会 (年1回開催)

情報交換では学校のマネジメントを考えると、施設一体型の方が運営しやすいとの意見が多いと聞いた (ヒアリング)

事例④：諏訪市立上諏訪小学校・上諏訪中学校

[小中一貫教育学校 / 施設併設（隣接）型（R3年度～）]

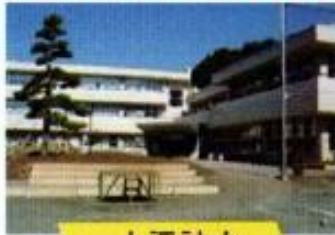
■学校施設環境

- ・ 諏訪市 人口：46,736人
世帯：21,495世帯
- ・ 諏訪市東部地区の中学校区
[城北小＋高島小]＋上諏訪中
高島小と上諏訪中の立地は同じ敷地内
- ・ 城北小＋高島小＝上諏訪小
👉通学区の見直し
- ・ 施設併設（隣接）型小中一貫教育学校へ

施設併設（隣接）型

【令和3年度より開始】

上諏訪中学校区（東部地区第Ⅰ期）



上諏訪小



上諏訪中

教育目標

“自らを拓き、未来を生きる”

出所：「未来創造ゆめスクールプラン」リーフレット2024.3月

□教育活動・学校運営の視点

- ・ 小学校と中学校の両校に校長、教頭
- ・ 小学校1年から中学校3年までの「異学年（年齢）交流」による学習や行事
 - ①児童会、校友会の合同企画・運営で「給食」「みんなで歌を歌おうプロジェクト」等年間10余りの合同行事
- ・ 小中学校の教員は小中併任となり、相互乗り入れ授業の実施
- ・ 小学校高学年の教科担任制、中学校の学年担任制により複数教員の連携で子どもの育ちを保障
- ・ 教育課程の特例による「すわっこ学習（小学校）・諏訪学（中学校）」「相手意識に立つものづくり科」を核にした学びの展開

事例⑤：学校施設運用における工夫・留意点

[義務教育学校根羽学園 / 箕輪町立箕輪中学校]

調整役の配置による学校・地域協働 [義務教育学校根羽学園]

■学校施設環境

- ・学園内に学びの村推進センター
「まなばねば」を設置 [R8. 4月～]
- ・人的配置は2名
 - ①センター長 (R8～) ②総合学習Co
(地域おこし協力隊員)
- ・①センター長の任務
 - ・総合学習コーディネーター (Co)
 - ・部活動地域移行の準備
 - ・放課後公営塾の企画と運営
 - ・社会教育への協力(公民館施設がなく役場内に公民館機能)
- ・②総合学習Co
 - ・総合学習コーディネーター (Co)

居場所機能の創出とにぎわいの形成 [箕輪中学校]

■学校施設環境

- ・住民との交流に使う教室「**ふるさとルーム**」に生徒や保護者、地域住民が自由に本を並べ、貸し借りできる「**みんなの図書館**」を設置

箕輪中で取り組み 保護者や住民も並べて

みんなの図書館
本で交流の輪



箕輪町立箕輪中学校は生徒や保護者、地域住民らが自由に本を並べ、貸し借りできる取り組み「みんなの図書館」を同校の一室で始めた。本を通じて交流促進を狙い、12日は生徒や保護者ら10人ほどが本を持ち寄り、約60冊が本棚を彩った。

生徒ら本棚制作「精度にこだわり」

本棚は同校技術部の1人から2月に制作を開始。地元の建築士事務所「清水建築」の指導を受けたが、5月に完成させた。部長で3年生の加納さん(14)は「精度にこだわって作った。本が並んでいるのを見てうれし」と笑顔だった。

図書館の開放時間は今後調整し、同校ホームページで知らせる。

ふるさとルームは、先進的な学習を進める「ウェルビーイング実践校T.O.C.O.T.O.N(トコトン)」の「一環として、昨年4月に設けた。

住民との交流に使う教室「ふるさとルーム」にある。本棚はサイズの異なる本が計26個ある。本を人は、棚を一つ借りて自分のお気に入りの本を借りたい人は、貸し出しに名前を書けば、自由。

服飾についての本を年生の手塚玲さん(15)が読んで面白かったのが近い人に読んでほしいのレシビ本を並置者の女性「生徒が借りられないジャンルの本さっかかけにしたい。」

本棚は同校技術部の1人から2月に制作を開始。地元の建築士事務所「清水建築」の指導を受けたが、5月に完成させた。部長で3年生の加納さん(14)は「精度にこだわって作った。本が並んでいるのを見てうれし」と笑顔だった。

図書館の開放時間は今後調整し、同校ホームページで知らせる。

ふるさとルームは、先進的な学習を進める「ウェルビーイング実践校T.O.C.O.T.O.N(トコトン)」の「一環として、昨年4月に設けた。

出所：信濃毎日新聞 2026. 6. 13

小中一貫教育(一体型・分離型・隣接型)における 学校施設のメリット・デメリット(例)

メリット	デメリット
・小中学校段階間の緩和や系統性を意識した小中一貫教育が期待できる	・小学校高学年期のリーダーシップや自主性を養う機会が減る
<u>① 9年間を一つの「学びの場」に</u> ・子どもたちの実態や理解程度、9年間の指導内容の系統性を考え、指導する時期(学年)や指導時数を柔軟に考える特例が認められる。また、学年段階の区切りも柔軟にできる(「6-3」「4-3-2」など)。	<u>① リーダーシップや自主性を養う機会の減少</u> ・義務教育学校では小学校段階の5、6年生は高学年ではないので、リーダーシップや自主性を養う機会が減ってしまう。学校行事の工夫した運営が必要である。
<u>② 小中学校の相互乗り入れ授業の実施</u> ・小中学校の教員は小中併任となり、小学校段階から複数の教科で教科担任制を可能にしている。	<u>② 小学1年と中学3年の発達段階の差</u> ・学校行事など様々な教育活動を通じて異学年交流が行われるが、縦割り活動などでは配慮が必要である。
<u>③ 異学年交流による人間性・社会性の発達</u> ・上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識や価値観の共有、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待される。	<u>③ 施設分離型の教育活動・学校運営の課題</u> ・合同授業や合同行事、教職員の合同会議(一部オンライン)等を実施しているが、移動がたいへんである。教職員の日常的なコミュニケーションや隠れたカリキュラムが弱みとしてある。

- 現行制度下での**小中一貫教育の取組形態**は、教育課程のあり方、学年段階間の区切り、学校マネジメント体制のあり方、施設形態など様々であり、地域の実情に即した取組がなされている。
- 小中一貫教育に取り組む**学校施設の整備**においては、小・中学校段階間の差異に配慮したり、地域ぐるみで子どもたちの学びを支えていく観点から、地域と連携できる施設環境を校内に確保している。

例)

- 学園地域コーディネーター活動拠点
- コミュニティスクールの推進

参考文献・引用文献

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ○「下伊那教育会史 百周年記念」 | 下伊那教育会編（S62.10） |
| ○「下伊那教育会百三十年史」 | 下伊那教育会編（H21.12） |
| ○「世界の教育はどこへ向かうか」 | 白井 俊 著 |
| ○「学力喪失－認知科学による回復への道筋」 | 今井むつみ著 |
| ○「学びとは何か－＜探究人＞になるために」 | 今井むつみ著 |
| ○「子どもの社会力」 | 門脇厚司 著 |
| ○「思考の整理学」 | 外山滋比古著 |
| ○「子どもが心配」 | 養老孟司 著 |
| ○「論点整理（案）」 | 文部科学省教育課程企画特別部会 |